

ポートフォリオ導入の試み —他大学の取り組みを参考に—

田中正弘

FDワークショップ

12月5日（日）

目次

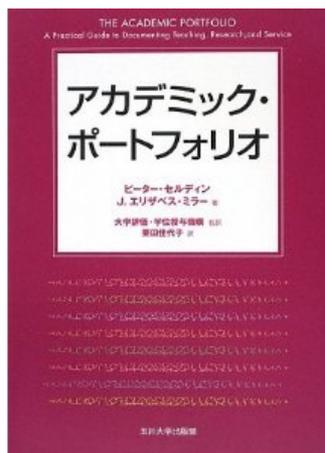
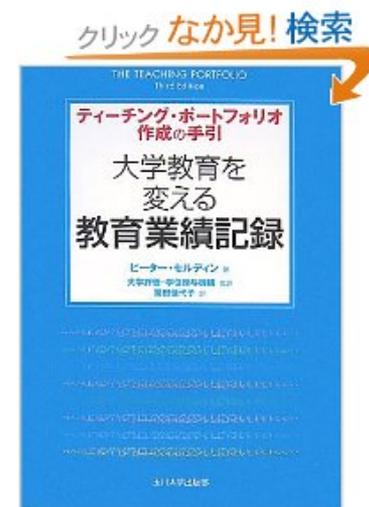
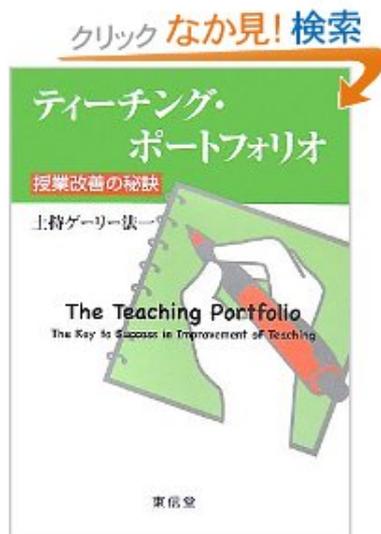
- **ポートフォリオの研究**
- **中教審「学士力」答申の提言**
- **ポートフォリオ導入の試み**
 - **佐賀大学の試み**
 - **三重大大学の試み**
- **FDシンポジウム（12月10日）**
- **まとめ**

ポートフォリオの研究

ポートフォリオの研究（1）

- 我が国では、前21世紀教育センター高等教育研究開発室長の土持法一や大学評価学位授与機構の栗田佳代子が、先駆者として知られている。
- 代表的な著作は、
 - 土持法一（2007）「ティーチング・ポートフォリオ 授業改善の秘訣」東信堂
 - 土持法一（2009）「ラーニング・ポートフォリオ 学習改善の秘訣」東信堂
 - ピーター・セルディン著・栗田佳代子訳（2007）「大学教育を変える教育業績記録」玉川大学出版部
 - ピーター・セルディン他著・栗田佳代子訳（2009）「アカデミック・ポートフォリオ」玉川大学出版部

ポートフォリオの研究 (2)



中教審「学士力」答申の提言

中教審「学士力」答申の提言 教員の職能開発の観点から（1）

● 職能開発の現状と課題

- 「研究面に比して教育面の業績評価などが不十分であり，教育力向上のためのインセンティブが働きにくい仕組みになっている」（39頁）。

● 改革の方向

- 「FDの実施が，各大学に義務付けられたことを契機として，各大学では，その在り方を主体的に見直すとともに，教員評価の在り方等を含め，教員の教育力向上に向けた取組を総合的に進めていくことが重要である」（40－41頁）。

中教審「学士力」答申の提言 大学間の協働の観点から（2）

● 具体的な改善方法

- 「授業改善に向けた様々な努力や成果を適切に評価する観点から，教員が教育業績の記録を整理・活用する仕組み（いわゆる **ティーチング・ポートフォリオ**）の導入・活用を積極的に検討する」（43頁）。

中教審「学士力」答申の提言 成績評価の観点から（1）

- **成績評価の現状と課題**

- 「我が国の大学は，成績評価について，個々の教員の裁量に依存しており，組織的な取組が弱いと指摘されてきた」（26頁）。

- **改革の方向**

- 「評価に当たっては，多様な活動の成果を評価する観点から，学生の学修履歴等の記録と自己管理のためのシステムを開発することは，学習成果を重視した評価の条件整備として重要である」（26頁）。

中教審「学士力」答申の提言 成績評価の観点から（2）

- **具体的な改善策**

- 「学生が、自らの学習成果の達成状況について整理・点検するとともに、これを大学が活用し、多面的に評価する仕組み（いわゆる**学習ポートフォリオ**）の導入と活用を検討する」（27頁）。

ポートフォリオ導入の試み

佐賀大学の試み

佐賀大学の試み

ポートフォリオ導入の経緯と理由（1）

- 新しい評価の導入ではなく、**教育改善の文脈**から、中期計画の中にポートフォリオの実施を明記した。
- 理工学部のJABEE学科は、既にポートフォリオの考えを持っていたので、親和性があった。また、学生の自己点検書（ラーニング・ポートフォリオ）も存在していた。よって、高等教育開発センターの理工学部の教員が導入を主導した。
 - （中教審の答申に書かれるより前の2008年頃までに、ポートフォリオのアイディア自体は進んでいた。）

佐賀大学の試み

ポートフォリオ導入の経緯と理由（2）

- **最終的に，センターのアイディアが執行部に
取り上げられた（組織上，センターは意見を
言っても指示はできないので，最終決定は，
大学教育委員会の責任で行われた）。**
- **平成21年度にポートフォリオの全学実施を
教育担当理事が宣言した。**

佐賀大学の試み

導入に至るまでの課題とその解決方法（1）

- **ティーチング・ポートフォリオ導入の課題は、**教員の理解を得る**ことである。**
 - 教員にとって、ポートフォリオの導入は新たな報告書作成業務の追加，または教員評価の指標の増加といった認識でしかない。
- **ポートフォリオの導入が教育改善に繋がるか**という疑問がある。
 - 自らの教育活動への振り返りが大事だと説明をしている。この点で，教育における「**主体性の回復**」を強調している。つまり，教育に関する自分の憲法（心のよりどころ）を作るということ。

佐賀大学の試み

導入に至るまでの課題とその解決方法（2）

- **ラーニング・ポートフォリオの導入は、自然系の学部では、学力低下の問題から、賛同を得やすい。なお、ポートフォリオの電子化が強く要望されている。**
- **対照的に、文系の学部では、理解を得るのが難しい。これらの学部では、担任制があまり機能していないことも遠因となっている。**

佐賀大学の試み

導入に至るまでの課題とその解決方法（3）

- 学生からの意見として、自らのラーニング・ポートフォリオを就職の**エントリーシートに活用**したいというものが多い。
 - よって、学生はポートフォリオの作成に前向きだと思われる。
- ラーニング・ポートフォリオでは、学生に、何を学んだかだけでなく、**これから何を学びたいか**を書かせるようにしたい。これは、高校などに普及している「パーソナル・ポートフォリオ」という発想。

佐賀大学の試み

ポートフォリオの問題と工夫（1）

- **ラーニング・ポートフォリオは担任が管理している**ので、ポートフォリオに対する担任の温度差によっては、学生への利益・不利益が生じる危険性がある。
- なお、ポートフォリオを書かない学生にペナルティーを課すべきだという教員に対しては、書かない時点で既に彼らの不利益（自己省察の機会喪失）になっているので、それ以上のペナルティーは必要ないと説明している。

佐賀大学の試み

ポートフォリオの問題と工夫（2）

- **お金の問題は大きい。**
 - 概算要求（特別経費）で計上できないものは、適宜、学長に手当てしてもらわないといけない。
- **ワークショップの開催経費の問題もある。**
 - 50名程度の参加者なら、150万円程度（会場の借り入れ経費などを含む）が必要になる。

佐賀大学の試み

ポートフォリオの問題と工夫（3）

- メンターの専門とメンティーの専門は、意図的に重ならないように配慮している。
 - メンターの専門と近いと、細かい点に互いの意識が向かいがちになることが問題だと考えている。
- 専門性が重ならない方が全体に目を配れる上に、分野外の人でも理解できる「**分かりやすい**」表記を心がけられる。
 - なお、将来的に教員評価に使う可能性があり、かつ学生や保護者でも読めるようにする必要性から、「**分かりやすさ**」は大事だと考えている。

佐賀大学の試み

ポートフォリオの問題と工夫（４）

- ラーニング・ポートフォリオに基づく学生の指導について、教員のポートフォリオの活用方法がバラバラであることが問題である。
 - 運用マニュアルの作成に難しさを覚えている。
- 学部・学科の要望に応じて、特別経費で採用した**特任教員（２名）**が、ポートフォリオの活用方法に関する説明に出向く予定。
- ラーニング・ポートフォリオのシステム上の問題は、情報基盤センターが管理している。

佐賀大学の試み

ポートフォリオの今後の発展計画

- 同僚教員とお互いのポートフォリオを，特に教育理念・方法の部分で，「共有」できるシステムの整備に着手したい。
- 簡易版を全学的に普及させること，または，学科単位での（CPを基盤とする）カリキュラム・ポートフォリオを全学レベルで導入したい。
- ポートフォリオ導入に関する担当者の経験談を，書籍の一章として発表する予定（皆本先生）。
- 佐賀大学の主催で，愛媛大学と連携（メンターとメンティの両方を派遣してもらおう）し，ポートフォリオのワークショップを開催する予定。

ポートフォリオ導入の試み

三重大学の試み

三重大大学の試み

導入に至るまでの課題とその解決方法（1）

- **平成21年度に採択された概算要求（特別経費）「教育目標の『4つの力』を育成する取り組み—e-portfolioシステムを核とした主体的学習環境の構築」による取り組み（初年度9千万円）として、ポートフォリオの導入に着手した。**
- **Moodleを教育学部の先生が主導して本格的に導入していたことや、学内無線LANシステムの整備が、導入の基盤になっている。**

三重大大学の試み

導入に至るまでの課題とその解決方法（2）

- 初年次教育の開発を担当しているセンターの全学教育部門（心理学分野）の先生たちが、ポートフォリオ・システムの導入を強く望んでいた。
- そこで、初年次教育に関する概算要求の計画書の中に、e-portfolioの導入を盛り込んだ。
- この概算要求が採択されたので、システム開発の適任者として、環境情報学の森尾先生を選出した。
- 概算要求で**3名の特任教員**を採用した。
 - ただし、翌年度に年俸制の正教員として再雇用した。
（人件費は様々な方法でかき集めた。）

三重大大学の試み

導入に至るまでの課題とその解決方法（1）

- **ポートフォリオの導入は、大学全体の教育目標である「4つの力」（感じる力，考える力，生きる力，コミュニケーション力）の育成に不可欠だと説明した。**
- **とはいえ，専門教育に唐突に適用することは，学部から強く反対されることが予想されたために，教養教育から順次導入し，徐々に全学レベルに広めることにした。**
- **（森尾先生個人の考えとして，）新しいシステムの導入を学生から要望してもらった方が，教員を説得しやすいと思う。**

三重大大学の試み

導入に至るまでの課題とその解決方法（2）

- **ポートフォリオの導入が管理強化に繋がるという懸念が教員間で強かったので、その点は全くないと繰り返し強調した。**
- **ポートフォリオ・システムの肥大化（学生カルテなど他のシステムとの連動）は危険だと判断した。**
 - **結果的に簡便なシステムとなり、成功したと考えている。**

三重大大学の試み

導入に至るまでの課題とその解決方法（3）

- **ポートフォリオ・システムの開発経費は、約2千万円（一般公募で外注した）。デザインの見直しに多大な時間を要した。**
 - **外注先はエミットジャパン（e-portfolioの開発実績がある名古屋大学のベンチャー企業で、格安で請け負ってもらった。）**
- **毎日使いたくなるようなデザインにした。**
 - **金沢工業大学のように、学生を集中管理するようなイメージを与えられなかった。**

三重大大学の試み

ポートフォリオの問題と工夫（1）

- **現状は、一年生全員がポートフォリオを使用しているわけではない。約4割程度の学生が利用しているに過ぎない。**
 - **ただし、導入初年度なので、全員に利用されても、（管理能力を超えてしまうので）困ると思っていた。**
- **就職活動に必要なエントリーシートの執筆との連動性を高めるために、「プロフィール」の項目を作成した。**
- **自動応答メッセージを充実させて、各学生が自己省察・自己発展できるようにしたい。**

三重大大学の試み

ポートフォリオの問題と工夫（2）

- **課題として、ポートフォリオの利用に関する説明の機会が少ないことがある。**
 - 紹介程度しかできていない。実際に使ってもらって、「よさ」を実感してもらう機会の提供が必要。
 - なお、大学のホームページで使用方法などを動画で説明しているし、TA（院生）にも使ってもらって、普及に努めてもらっている。
- **本当に使いたいと思う学生が使えるようになってきているのかも、課題の一つ。**
 - 継続利用に対するモチベーションの保持も課題。

三重大大学の試み

ポートフォリオの問題と工夫（3）

- 講義の中で、ポートフォリオの作成に繋がるような課題（たとえば、プレゼンテーションの改善を自分なりに考える）を出すことをお願いしている。
 - 一部の教員は反応してくれている。
- 敷居を下げるために、「ツイッター的に利用してもらえれば」と説明している。
- セキュリティーの問題（IDとパスワードのみは不完全）が残されている。

三重大大学の試み

ポートフォリオの問題と工夫（４）

- **学生が作成したポートフォリオを教員は見ることができない。**
 - **教員に見られるサイトに，学生は本音を書かないと思われるため。**
- **ポートフォリオを，学生の学習到達度を測るためのツールとして，設計した訳ではない。**

余談として，

- **開発の業務（責任）を一人の教員で請け負うのは，無理があると思う。**
 - **精神的にかなり辛かった。**

三重大大学の試み

ポートフォリオの今後の発展計画

- 二年目以降に、初年次科目（必修）「四つの力のスタートアップ・セミナー」で、今年度よりもポートフォリオの活用を活発化させられるように準備をしたい。
- ポートフォリオに「火」がつくタイミング（多くの学生が利用し、その有効性を喧伝してくれること）を待ち望んでいる。それまで、時間をかけて浸透を促していきたい。

F D シンポジウム (12月10日)

F D シンポジウム開催要項 (1)

日時：平成22年12月10日(金)

14:30~17:30

会場：弘前大学創立50周年記念会館「みちのくホール」

主催：教育・学生委員会

開催趣旨：

学士課程及び大学院課程では、教育内容等の改善のため、組織的な研修等（いわゆる「FD」）が義務化されています。このため本学では、文部科学省からの特別教育研究経費の配分を受け、「ティーチング・ポートフォリオを活用したFD活動の展開」を展開してまいりました。今回のシンポジウム3年間のFDの取り組みとその成果・今後の方向性を発表するだけでなく、このシンポジウムを通じて、本学におけるティーチング・ポートフォリオを活用したFD活動をより一層推進し、積極的に教育改善を図るものとします。

F D シンポジウム開催要項 (2)

日程 (1) :

14:00~14:30 受付

14:30~14:35 開会挨拶 (遠藤学長)

14:35~15:05 講演 (佐賀大学 皆本晃弥准教授)

「佐賀大学におけるポートフォリオ活用の試み」

～教育改善のためのティーチング・ポートフォリオ導入とその展開～

15:05~15:10 質疑応答

15:10~15:40 講演 (岐阜大学 鈴木康之教授)

「岐阜大学医学部におけるポートフォリオ活用の試み」

～1年次地域体験実習と5年次医療面接実習における振り返りの促進と教員からのフィードバック～

F D シンポジウム開催要項 (3)

日程 (2) :

15:40~15:45 質疑応答

15:45~15:55 休憩

15:55~17:15 弘前大学の取り組み

教育・学生担当理事、部局からパネリスト (人文学部、教育学部、医学研究科、保健学研究科、理工学研究科、農学生命科学部) 人文学部学生

17:15~17:45 海外派遣報告

「I CED 国際コンソーシアム」

「POD」

「SEDA」

まとめ

まとめ

- **ポートフォリオの開発には，概算要求など，特別な予算が必要不可欠である。**
- **概算要求で，ポートフォリオの開発・普及に特化した特任教員の存在が重要である。**
- **ティーチング・ポートフォリオは，学生に向けてわかりやすく書く。**
- **ラーニング・ポートフォリオを就職活動に必要なエントリーシートとしても活用できるように工夫する。**

ご静聴ありがとうございました。

田中正弘

(21世紀教育センター高等教育研究開発室)

12月5日(日)